

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横浜低温流通株式会社厚木新センター	階数	地上3F
建設地	神奈川県厚木市船子字長ケ町114番	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	54人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年9月	評価の実施日	2012年10月25日
敷地面積	8,459 m ²	作成者	大和ハウス工業㈱
建築面積	4,190 m ²	確認日	2012年10月25日
延床面積	8,346 m ²	確認者	大和ハウス工業㈱



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
参照値: 100%
建築物の取組み: 91%
上記+ 以外のオンサイト手法: 91%
上記+ オフサイト手法: 91%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項

総合	その他
大規模建築物で、倉庫部分はその9割を占めています。冷凍・冷蔵倉庫は、断熱材にて屋外からの熱を遮断し、良質な作業環境、商品の品質を保ちます。環境負荷低減に努めた建築物を計画しました。	0
Q1 室内環境 化学汚染物質による空気汚染防止を図りました。	Q2 サービス性能 建物を長期使用するための空間のゆとりを確保しました。
Q3 室外環境(敷地内) 地上緑化を敷地面積の15%以上配慮し、景観・まちなみに配慮すると共に、敷地内の温暖化環境負荷の低減を図りました。	LR1 エネルギー 高効率な設備機器を導入し、エネルギーの低減を図りました。 一部太陽光発電を採用し、自然エネルギーの利用を図りました。
LR2 資源・マテリアル リサイクル材の使用を積極的に行いました。	LR3 敷地外環境 空調室外機に隣接して遮音フェンスを設け、騒音値の低減を図りました。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい